

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892700093		
法人名	社会福祉法人那珂の郷		
事業所名	グループホーム こはるの郷		
所在地	兵庫県多可郡多可町加美区大袋194-1		
自己評価作成日	令和7年11月26日	評価結果市町村受理日	令和8年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人CSウオッチ		
所在地	兵庫県加古川市加古川町稲屋177-10		
訪問調査日	令和8年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームの方針である「利用者一人一人が持てる力を発揮し、出来る範囲で何等かの役割分担を行い、互いに助け合い補い合う生活が営めるようにする。」を意識し個別で出来る事を把握し生活の様々な場面において実施して頂いています。食事においては、ご利用者と一緒にメニューを決めたり食材の買い出しや調理などを行っています。その他掃除や洗濯たたみなどの家事も熱心にして下さいます。入浴については夜間入浴を行っており生活リズムの安定に繋げられるよう努めています。3か月に1度の「ささゆりの会」ではご利用者全員が参加され、したい事などのご意見を頂き実現できるよう努めています。地域交流として「絆カフェ」の実施や食材の買い出しへ行くなど積極的に行っております。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】エントランスから、広々とした敷地に落ち着いた色合いで立地されている。
 【工夫点】地域方との交流をするスペースと入所のリビングと扉を開けるとつながる形である。またリビングから、中庭にスロープで降りることができ、暖かくなると花壇作りを職員及び利用者で行うことがある。3か月に1回開催される「ささゆりの会」は、入所者全員が参加し意見を出し合う場である。生け花教室の先生をされていた方の意向を組み、週1回家族と一緒に外出し、生け花教室を開催をしている。個々の持っている力を最大発揮できるように支援が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な雰囲気での共同生活を営む中で、適切なケアサービスを行い、認知症の進行を緩和し、自立した生活が送れるようにする。」を当ホームの目的とし、マイペースで生活できるよう心がけ認知症予防と個別ケアに努めている	施設がめざすサービスのあり方など、こはるの郷独自の内容を具体化している。その内容を重要事項説明書の一面に示している。地域密着型サービスとして何が大切かを施設として考えている。職員全員3か月に1回支援内容の情報を共有し、検討を重ねている。個別ケアを重視し運動・回想・音楽・園芸療法に力を入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・週2回近所のスーパーへ食材の買い出しに行っている。 ・月2回「絆カフェ」にて地域交流を行っているなど	地域とつながりながら暮らしていくことをとても大切にしている。週2回食材の買い出しに職員と利用者で買い物に出かけたり、第2・4水曜日「絆カフェ」を開催している。地域のケーブルテレビを見て参加される方もいる。通うのが難しい方には送迎を行う。管理者はキャラバンメイトとして認知症サポーター講座に参画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・認知症サポーター養成講座の実施 ・絆カフェの開催		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では情報交換しアドバイスを頂きながらサービス向上に努めています	2か月に1回、同法人のグループホームと合同で開催している。事業からの報告とともに行事や事故・ヒヤリハット等内容を報告する。家族、市役所職員や治自会区長、民生委員が参加し、メンバーから質問や提案を受け、具体的な課題を話し合っている。	同法人のグループホームと合同で開催されています。地域密着型サービスとして地域の理解や支援を得るための貴重な機会です。地域性を意識した開催を検討してみましょう。事業所単位での開催はいかがでしょうか。近隣のグループホームの運営推進会議に参加し新たな運営のヒントなど情報を得てみましょう。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やその他の場面で情報交換しアドバイスを頂きながらサービス向上に努めています	多可町役場の福祉課職員や地域包括支援センターとは日ごろから事業所のケアサービスの取り組みや加算取得について相談をしている。どちらかというところが多い。施設の相談事項に応じ対応をもらえるよう関係づくりを意識している。	

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指 定基準における禁止の対象とな る具体的な行為」を正しく理解 しており、玄関の施錠を含めて 身体拘束をしないケアに取り組 んでいる	委員会や研修を行い身体拘束を しないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしないケア」につ いて全職員を対象に年2回研修 会を開催している。身体拘束 チェックリストを活用し職員 の日々のケアについて振り返 る機会となっている。令和7 年12月18日身体拘束等適 正化検討委員会を開催し「ス ピーチロックやドラックロック 」に関する勉強会を施設内で 実施している。	「身体拘束の指針」を作成し 運営規定に記載し身体拘束を しないケアの実践に活かして いきましょう。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待 防止関連法について学ぶ機会 を持ち、利用者の自宅や事業 所内での虐待が見過ごされる ことがないように注意を払い 、防止に努めている	委員会や研修の実施、その他 個人面談等で話し合い意見交 換を行っている	令和7年8月12日虐待防止 検討委員会を開催し議事録を 作成している。虐待防止研修 「ついやってしまう不適切な ケアをなくすために」をテーマ に研修を実施、研修実施後は レポートを全職員が記載して いる。研修計画および研修資 料、報告書について実施日毎 にファイリングし保管してい る。	

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の実施により周知している	職員会終了後に実施している。認知症ケア基本知識から成年後見制度につながる内容を学ぶ機会としている。権利擁護に関する研修資料を準備し令和8年3月実施を予定している。研修受講後は全職員研修レポートを提出している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等には十分な時間をとり説明を行い、しっかり納得される様努めている	契約時は、重要事項説明をもとに時間を取り説明を行う。事業所のケアに関する考えや取り組み、看取りや重度化について指針を作成し対応方針について説明し同意を得ている。医療連携体制では、看護相談を1週間に1回実施している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様には来所時などに要望等をお聞きしており、ご利用者様からは日々の中やご利用者参加の会議時等にご意見を頂き反映できるようにしている	家族には施設に来院時、常に問いかけ何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。「ささゆりの会」では積極的に意見が言える場として活用している。利用者の「行きたいところ、食べたいものなど年4回聞き取りをし職員で話し合い共有しながらサービスに反映している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の中や個別の面談時、会議時等にて意見交換を行っている	入居者との日常的な関わりの中で生まれる「歩行訓練をしてあげたい。」「食事のメニュー」など気づきやアイデアを取り入れている。「眠れないことがある」という情報から職員間で話し合いを重ね生活の質改善にむけ取り組んでいる。経過をカンファレンス記録にまとめ共有を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者よりの報告等を受け状況を把握し整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者よりの報告等を受け、研修の受講などレベルアップに向けた取り組みの機会を提供している		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームによる連絡会への参加や外部研修への参加等を行っている		

自己	者	第三	項目	自己評価		外部評価	
				実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談時に得た情報を他の職員と共有し入所後のケアに繋げている、また入所後も積極的に交流を図り信頼関係の構築に努めている			
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談時より不安に思われていることなどをお聞きし安心してご利用して頂ける様に努めている			
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に思いを伺い、本人とご家族が、まずは安心して頂ける状況が作れるように努めている			
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・個々の能力に応じた家事など生活リハを行って頂き役割を作る事で生きがいに繋がる様に努めている ・日々に中や会議等にてご意見を伺い、より良い生活が営めるよう努めている			
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所相談時や入所後も含めて、ご利用者様にとってのご家族様の影響力を理解して頂き協力関係を築いている			
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	普段の会話でお聞きした場所へ行ってみたい、面会や絆カフェなどにて交流されたり、ご家族様と外出された際に自宅へ戻られ近所の方と交流などされている	これまでの地域との関りが継続できるよう、接点をもちながら関係性を大切にしたい支援を展開している。事業所の地域交流室で開催される「絆カフェ」は地域の方とふれあう場となっている。地域のお店に買い物に出かけ懐かしい知人と出会う方もいる。週2回生け花教室の先生を家族の協力のもと自宅へ戻り継続している。		
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事時の席の配置を考慮したり、趣味嗜好を把握し関係性を深めている、その他、利用者間に職員が入り、会話のきっかけを作るなど能力に応じた役割を実施して頂くようにしている			

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じて相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話より情報収集を行い意向に沿えるように努めている、またご家族様等よりも話を伺いケアに繋げている	入居相談から、施設長、計画作成担当者・地域包括等より情報を得る。面談が、施設見学実施後、更に詳細な説明を行う。生活歴やその方の嗜好など多くの情報と自発的な意見からその内容を汲み取る。関係構築後も継続して意向の変化を含め確認を行っている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報収集などもしっかり行い本人様にとって、入居前までの生活の続きが出来る様に努めている		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の状態観察をしっかり行う事で、変化に気づき情報の共有が出来ている		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人には日々の中で、ご家族様には来所時に、主治医には受診時等にご意見を頂き反映しています	介護計画そのものが多くの情報を統合分析したところから始まる。環境に慣れて頂きながら、僅かな予兆を見逃さず、対応してきたことで、例えば安定剤等を増やさず落ち着いて生活が継続で来ている方もおられる。モニタリングは計画作成担当者が月1回以上評価を行い記録に残している。	職員が、9名の入居者を3名ずつ担当し、計画的にどのようなことを標準としてみていくかを、模索中と話されていました。今後も職員間で意見を出し合い小さな変化を大事にケアの継続をして頂くことを期待します。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	PDCAサイクルを意識し、職員会議やカンファレンス等にて話し合い、ご利用者様が気持ちよく生活を送って頂ける様に努めています		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	ニーズがあった場合は職員で話し合い、出		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	来る限り柔軟に対応できるように努めています		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーへの買い出しや図書館、理美容などを活用しながら生活範囲拡大を意識して支援を行っている		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には従来からのかかりつけ医を継続して頂いており、必要時は協力医療機関と連携を取り適切な医療が受けれる様に支援を行っている	入所時に、現在のかかりつけ医情報を頂き、継続されている方が多い。緊急時等、対応時には、協力医療機関と連携をとることで、速やかに適切な医療を受けることができるように支援を行っている。他科受診等の際も通院同行は家族が行うが、遠方であったり、行くことができない場合は、施設職員が同行し家族と情報を共有している	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護師の来所時と必要時に情報提供を行い、適切に受診等を行っている		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入院先に情報提供を行い、入院中は担当者の方へ情報収集や退院時期等の話し合いを行っている	入院が必要な場合、情報提供書はケアマネが作成している。入院中のやり取りは管理者も含め行うことが医療連携がとられ、速やかに治療を開始する。退院が決まれば、カンファレンスに参加し、戻られたときから安心して生活が送れるように、家族と調整をして受け入れを行っている。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化された時の指針を説明しており、同意書にも署名して頂いている、必要時には主治医なども含め意見交換を行い方針を共有している	契約書及び重要事項説明書から、重度化した場合の対応に係る指針・看取り介護の指針を確認した。契約締結時は、余り質問も無く同意を頂くことが多いとのこと。デリケートな部分でもあり、状態の変化に合わせて適宜、説明を行い対応をされている現状である。	「重度化した状態」は、主治医の判断を基本とされています。その内容がもう少し、解りやすく利用者・家族に提示できるように検討されてはいかげしょう。職員も状態をより明確に捉えることができるようになり信頼関係も深まるでしょう。
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	書面での周知や研修などを行っている		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につけると ともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練などを実施している、そ の他運営推進会議などで情報提供し体制を 築いている	自衛非常災害訓練は令和7年度1回終わり3月 に再度夜間を想定した訓練を実施予定。令和7 年7月BCP(自然災害・感染症)研修等を実施 し、6月感染症まん延防止も重ねて研修を行っ ている。情報提供も行うことができ、地域 での取り組みを始めている。	運営推進会議等で災害に関する研修等 の実践内容報告等が行なわれています。 今後は、家族様・地域の方々近隣の介護 施設等と協働していかれると今以上に具 体性が増すと思います

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に関する研修資料の周知や会議等での意見交換等を行っている	個人情報保護及びプライバシー保護(倫理法令遵守の研修等を行い、課題等発見時には、その都度職員等と話をを行うようにしておられる。特に言葉の慣れ合については、チェックリスト・事例を使い周知を行っている。9月の研修実施報告を確認した。	研修を適切に行っているため、研修計画・実施日・テーマ(具体的に)・参加者・不参加者・最終のまとめというシステムで一元管理をされるとより、研修効果も評価が行いやすいと思います。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者参加の会議でご希望を伺ったり、ティタイム時の飲み物の選択など実施している。ご利用者の主体性を意識したケアを行う事で自発性を促し自己決定出来る様に努めている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の予定は設定しているが、基本的にはご利用者様の意向や体調等に臨機応変に対応するように努めている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様自身に衣類等を選んで頂いたり、その他、理美容では毛染め等の選択もして頂いている			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者参加の会議時や普段も含めて、食べたい物の聞き取りを行い提供している、買い物や調理なども毎回一緒に行っている	自宅と同様の雰囲気があり、更に協力し合いながら生活をされている。基本的には入居者全員が食事の際に役割を持っている。卵を割る、焼く、野菜を切る、盛り付け等。車いすの方も2人介助の際にスーパーに買い物に同行して頂くなど楽しんで食事を摂られている	とても生活感があり、役割をそれぞれが個々のペースで持たれています。継続して行えるように期待します。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各ご利用者様の状態に合わせた形態や量の調整を行い、提供のタイミングなども出来る範囲で個別に対応している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と夕食後に口腔ケアを勧めており、必要時は一部介助も行っている			

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録など情報収集を行い、会議等で話し合い実施後に評価を行うなど自立に向けた取り組みを行っている	排泄や食事に関する確認表を活用し、その情報をもとに、誘導を行っている。特に退院直後などは、おむつ着用で戻られることが多く、不快感を示すこともあることから、早々にこれまでの生活に戻せるようにチームでケアを行っている。希望さえた布下着を継続して利用する方も数名、おられるとのこと。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給と適度な運動などの実施、必要に応じて下剤を使用し量、種類の調整を行っている		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に添えるように余裕を持った予定にしている、その他、基本的には夜間入浴を実施している	週2回の入浴が基本となる。夏場シャワー浴は、希望回数を状況に合わせて行っている。入浴は安眠及びリラクゼーション効果をもたらすよう、夕食後1日3名ゆっくり入浴して頂いている。日中はフリーで活動して頂いている。ゆず湯などの楽しみもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調等を把握し無理の無い生活を送って頂けるよう支援を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬リストをファイリングしており、すぐに確認できるように近くに置いている、また状態に合わせて主治医に相談し支援を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや掃除などの家事やレクや行事等について個別に合った内容の実施を心がけている。10時のティタイム時は毎日選択して頂いている		
49	(22)	○日常的な外出支援	普段は週2回の買い物外出や散歩、その他	スーパーやコンビニ等の買い物は、一人ず	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	図書館などに行かれる、家族などの協力により自宅や墓参り、展示会やコンサートなどに希望時は対応している	つ、週二回程度行く。絆カフェ開催時は、地域の方との交流がある。希望者は参加が可能 毎日10時にはカフェタイムで好きな飲み物を注文するようになる。小学校周辺には桜が咲くので散歩にも出かける。春には庭の花壇に苗を植えたりする。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者には、お金を使える様お預かりしている、その他、買い物外出時にお支払いして頂いています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用様が過ごされているリビングに電話を設置しており希望時等に対応させて頂いており、手紙も希望時に対応している		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には落ち着いた色の家具等を配置しています、その他、花を飾ったりして居心地の良い空間づくりに努めています	施設内エントランスを入ると、広々とした地域交流の空間がある。フロア内も、ゆったりとした空間で自由に利用者は過ごしておられた。構造上も大きな窓や扉があり、日が差し込み明るい生活の場となっている。中庭はスロープをおり、いつでも日光浴や花を愛でることができる環境にある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファにてゆっくり過ごして頂いたり、食席を気の合ったご利用者同士にしたりとリラックスして過ごして頂ける空間づくりに努めています		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前よりご家族様に説明させて頂き、設えの道具等の持参を要請している、その他日々の中で情報収集を行いプライベート空間を意識して環境づくりを行っている	フロアに入ると、長く幅広の廊下をはさみ右側に個々の居室がある。居室内は、整理されており、コード類はなく転倒防止に配慮されている。ベッド・壁フック・小タンス・布団類をレンタルできるようになっている。好みの写真やお仏壇などを持参できゆっくりくつろげるスペースとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	案内表示の設置や椅子などを置き、個別に必要な支援を行っている		